

海底のがれぎきを把握

南三陸町で調査実施

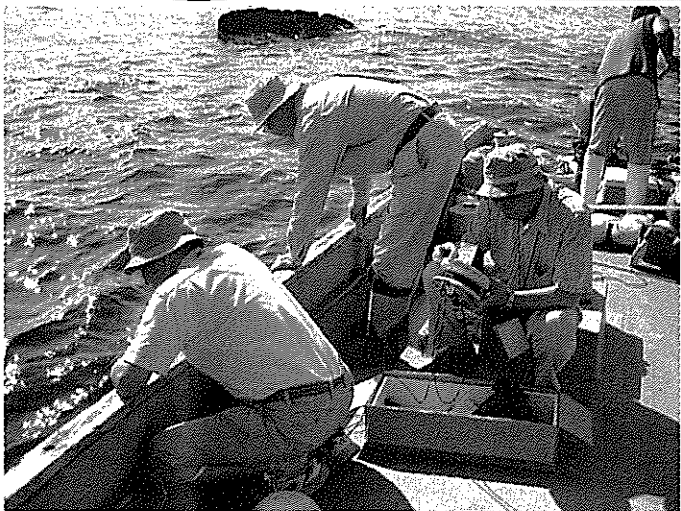
東京海洋大、環境シミュレーション研など

東京海洋大学産学地域連携機構は7月5、6日の両日、環境シミュレーション研究所およびマリネットワークス㈱と協力して、宮城東南三陸町沖合の海底のがれぎき調査を行った。調査後、JFみやぎ歌津支所および志津川支所を訪れ、調査結果をもとに今後の漁業再開に向けた具体的な課題についての意見交換会も開催。山川絏客員教授は「海底を診断することで、復興の具体的な提案をすることができ、今後も継続的な調査支援を行ってきたい」と話している。

この調査は、サイドスキャンソナー(Deep Seafloor Mapping System 3000)を用いた水深200m以内の海底地形を探索し、海底地形図を製作。調査海域は、定置網設置域の10-50m

プや養殖イケアなどが確認された。津波で移動した定置網のアンカーなどが確認された。行政による海底調査も各地で行われているが、漁業者への情報公開には

時間がなかったり、漁業水域での調査ではなかったりと、各地域の個々の要望には心えられていないのが現状である。しかし、来シーズンに向けたワカメの種付けはすでに



水中ビデオや箱めがねを用いた目視観察も行った

「箱めがね」で海中をのぞき込みながら、長さ約4mのさおを押し込め、船に乗った漁業者らがねらうのは、旬のウニである。東日本大震災の津波で流されたがれぎきは、岩手県大船渡市の末崎地区では7月12日か

薬哲郎さんは、ため息をついた。大きく腰を曲げて海中をのぞきつつ、片手でさおを操るのは重労働だが、慣れた作業だ。「ウニやアワビに比べた

「ウニより簡単、でも…」

岩手ががれぎき撤去の漁業者

ら、大規模ながれぎきの除去が始まった。さび付いたトタンや鉄パイプ、鍋、柱、サッシ、電化製品などが、流されずに残った数少ない船を使って、先端にかぎの付いたさおで海

を獲りたい。そんな愚痴はだれも言わないが、代わりに同じ気持ちで口にする。「海をきれいにしておかないと、アワビもウニも、カキもホタテもおいしくならない」。

問題点へ理解深める

TPPを考える国民会議が講演会 ケルシー教授招き札幌で

【札幌】TPPを考える国民会議(代表世話人・宇沢弘文東京大学名誉教授)は7月13日、札幌市内のホテルで、ニュー

ケルシー教授の住むニュージーランドはTPPの原加盟国の一つだが、TPPに対する異論も相次ぎ、大きな議論になった

「日本は米密」といふ声も聞かれる。TPPの仮面を剥ぐ、を日本でも出版し、話題を呼んでいる。

理理由について、本製品のTPPアクセスの確保は「日本は米密」といふ声も聞かれる。TPPの仮面を剥ぐ、を日本でも出版し、話題を呼んでいる。

